NPO 法人 横浜日独協会　Non-Profit Organisation　Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yokohama

Der Hafen（デア ハーフェン）

Nr. 55
2020 年 7月-9月

「パンデミックは最大のチャンス：働き方改革や学制改革を進めよう」

NPO法人横浜日独協会会長　早 瀬　勇（全国日独協会連合会副会長）

（1）新コロナ感染による世界的混乱が社会を変える

武漢を震源地とする新コロナウイルス感染の拡大という世界的地殻変動は、戦後日本や欧米各国に定着した民主主義社会・自由競争経済・国際協調政治の秩序を大きく変えようとしています。日米欧の政府が、政策を総動員してパンデミックを抑え込むことが強く望まれますし、その為の自粛協力などは国民の当然の義務です。もし抑え込みが出来ず、第2波・第3波のパンデミックが世界を襲えば、緊急事態宣言が常態化し、ヒト・モノの移動は制限され資本主義は機能不全となり、民意形成に手間取る民主主義も崩壊するでしょう。百年前のスペイン風邪は、第１波よりも、油断によってぶり返した第２、第３波の方が被害は重大でした。そして一旦強化された政府の権限は、多くの場合簡単に元に戻ることはないのです。

自由な国交と経済的繁栄をもたらしたグローバリゼーションや、ＥＵ内のヒトの移動を保障するシェンゲン条約などは、パンデミックを助長した“張本人”として後々自国中心主義者や社会主義者から糾弾されるでしょう。その結果、例えばハンガリーのオルバーン首相のような独裁者が勢いを得て、欧州市民に 1930 年代のナチズムの悪夢を思い出させるかもしれません。ここは一人一人が自覚して、なんとしても感染拡大を抑え込み、「緊急事態再宣言」の延長上に生まれるかもしれない独裁政治を阻止せねばなりません。ワクチンも治療薬も厚生当局が認可していない今は自粛を続けるしかありません。

各国の感染状況をみると、政府の初動の巧拙、国民性や衛生観念の差が顕著に見て取れます。我々も当面は自粛に徹し、第２、第３の波を抑えながら注意深く、徐々に日常と経済を取り戻しましょう。

（2）コロナ禍で崩壊する財政規律 ― ＥＵでの「ドイツ的倹約」は限界？

平時では認めがたい財政の膨張も、この緊急時には一時的に認容せざるを得ません。メルケル・ドイツ首相が、コロナ復興のためのＥＵ共通債務に賛成したのは正解だったと思います。マクロン仏大統領とメルケル首相が創設に合意したＥＵコロナ復興基金の規模は何と７，５００億ユーロ（約９０兆円）！それをまかなうためにＥＵ一体で発行する債券は５，０００億ユーロです。ドイツ式倹約の方向転換ですが、「融資形態のみ」を主張する”frugal 4”（オーストリー、デンマーク、オランダとスウェーデンの質素倹約国）との調整は６月１９日のＥＵ理事会で決まります。さらにメルケル首相は、付加価値税（日本の消費税に当たる）を１９％から１６％に引き下げ、コロナ危機脱出の礎石としました。最近のコロナ対策で連立相手ＳＰＤの支持を取り戻したメルケル内閣の英断です。

（3）大災害は最大のチャンス：関東大震災と昭和通りの教訓

先々月、元駐日ドイツ大使のシュタンツエル博士から、横浜でのコロナ感染を気遣ったメールを頂戴しました。横浜日独協会の生みの親であり、ドイツにおける中国・日本を中心とする国際問題のオピニオン・リーダーとして今も活躍されています。その際私は、「COVD－１９の蔓延は、否応なしに我々の生活スタイルに変化を強いています。職場や学校でのテレワークがここ２～３週間で急速に普及しています。資本主義は神の見えざる手で導かれましたが（led by an invisible hand）、今見えざるヴィールスが既存の体制を危機に曝しています(an invisible virus jeopardizes the Establishments.)」とメールを返しました。これまで当然なこと思っていたことが、当然ではなくなるのです。満員電車で毎朝９時までに出勤し、全員集合の早朝打ち合わせ会で上司から訓示を受けることが、必ずしも業務に不可欠ではなかったのです。テレワークで相当部分が可能なのです。当協会の理事会・総会も初めてＺＯＯＭ会議を導入しました。稟議書を持参して、役職者のハンコを１０も２０も頂かないと事が始まらない社会はもう変わりつつあるのです。

既存の体制の危機は、逆に社会を良くするチャンスでもあります。社会の進歩には「創造的破壊」が必要ですが、パンデミックは破壊を恵んでくれました。関東大震災をチャンスととらえ、大惨禍の東京

に平時では土地収用が無理な幅広い昭和通りを建設した後藤新平東京市長の英断が、今の日本にも必要です。長期休校でカリキュラムが消化できない今こそ、いろんな意味で「９月開講」を実現するチャンスなのです。「４月新卒一括採用」という“諸悪の根源（拙著『ドイツの試練』２０１６年参照）”を改め、幼児の“お受験”、受験生の有名大学への集中、父親の単身赴任という日本社会に染み付いた悪しき習慣から脱し、家族は一緒に地方で住み、地方創生を強力に進めるチャンスなのです。
「できることからやる」、「外国からの留学生が入りやすく、海外留学にも好都合な柔軟なシステムに代える」ことが大切です。ドイツの例を見ても、年齢＝学年である必要はありません。むしろ一旦学力に合った学年に入り、キャッチアップした時、上級に進めばいいのです。形式や世間体より、実力涵養です。

働き方改革でも同様で、新しい提案には先ずデメリットを並び立て、安易な前例主義から抜けられない官僚主義の壁を破らなくてはなりません。ドイツのシュレーダー元首相や、メルケル首相が日本の首相だったら、果敢に弊害を取り払うでしょう。日本の政界でも建設的討議が効率的に行われるよう、立派な人物を「選良」に選ぶ我々の責任も問われています。（了）（２０年６月６日記）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

新型コロナウイルス禍下、第５回総会開催される

今総会は賛助会員に係わる定款変更（第１号議案）や２０１９年度の事業報告及び収支決算、役員の選任など大切な議案審議の機会でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会初の書面表決でした。同時にオンライン会議も行なわれ、インターネット経由で早瀬会長のメッセージも届けることができました。

６月２０日現在の会員総数は２１６名／法人（総会定足数：１０８名）で、表決票の内訳は、ハガキ１０９名（個人１０４、法人５）、ウェブ１０名（個人）、合計１１９名でした。

まず１９年度の多くの活動の中で特筆すべきは、高校生のドイツ派遣が延期となったことです。日本とドイツに共通する新型コロナ・パンデミックの影響でした。（第２号議案）

決算並びに監事監査に関しては、高校生派遣事業が延期となったため、年度当初決定していた世界を目指す若者応援事業の補助金の停止、支払い済みの航空運賃や旅行保険のキャンセルなどを含めた年度末の会計処理も行われたが、全期間を通じ適正に処理されていたと報告がありました。（第３号議案）

２０２０年度の事業計画では示された方針は次のとおりです。

日本とドイツの草の根交流に取組んできた横浜日独協会は本年設立 10 周年を迎える。当協会は経営管理体制基盤の拡大にたいして、１９年１２月に神奈川県指定ＮＰＯ法人となり、さらに国内の日独協会では初の認定 NPO 法人を目指す。認定法人に求められるのは日独交流の取り組みの発展・深化に加え、市民活動の一層の広がりである。本年度よりの個人会員会費増額、個人・法人会員の拡大、寄附金等によるファンドレイジング（資金調達）などで、当協会の財政基盤の充実につなげる。

事業活動方針では、横浜市とドイツとの市民相互による草の根レベルの相互交流をさらに進め、日独両国の文化・政治・経済の基礎をなす価値と伝統を発展させ、横浜日独協会の大きな役割を果たす。設立 10 周年の節目を踏まえ事業に取り組む、とされています。

しかし、記念日当日の１０月１６日に予定されていた三渓園での大茶会は、新年度早々の４月に行われた理事会においてコロナ感染予防のため１年後の秋に開催することになりました。記念式典や講演会、演奏会は引き続き開催に向けて準備を進めていますが、多数の市民が参加する当初の企画内容で行うかどうか、創意工夫で新しいイベント・スタイルで取り組みたいものです。（第 4 号、第 5 号議案）

役員の選任では理事の退任・新任が議決されました。長年ご活躍された黒崎理事、大久保理事及び山岸理事が退任され、新理事に小貫治朗会員、大治はるみ運営委員、地野洋子運営委員が選任されました。総会後の理事会において常務理事の互選があり、大瀬理事が常務理事に、坂井常務理事、小島常務理事が理事となりました。（第 6 号議案）

総会後の新体制は次のとおりです。

会　　長	早瀬 勇
副 会 長	能登 崇　向井 稔
常務理事	南雲淑子　山口利由子　大瀬克博
	齊藤進治（事務局長）
理　　事	坂井啓治 小島拓人 成川哲夫 神永 晉
	ロベルト・ゼーリヒ　ハンス・ユーデック
	中尾尚美　佐藤恵美　磯貝喜兵衛
	寺澤行忠　藤田 香　大堀 聰　北井康一
	小貫治朗　大治はるみ　地野洋子
監　　事	戸田龍介　四方田彰
名誉顧問	林　文子（横浜市市長）
名誉会員	兼子良夫（神奈川大学学長）
顧　　問	瓜谷綱延（株式会社文芸社社長）
顧　　問	織田正雄（日独協会理事）
運営委員	野澤 勉　西条りみ

（事務局　齊藤進治）

法人会員紹介

有限会社 伏見ワインビジネスコンサルティング

＊ぜひ素晴らしいドイツワインをお試しください！！＊

近年日本のワイン市場には、世界のワインの多くが輸入されており、特に南半球産地のワインが目覚ましく、中でも南米の「チリ産ワイン」は品質も良く、特恵関税国の為、格安で販売され、今ではフランスに次ぎ第２の輸入国となっています。それ以外でもオーストラリアやアメリカ産ワインも以前に比べ増えています。そうした中で30年程前にはフランスと首位を争ったドイツワインの輸入量が全体の0.8%で、現在８位の輸入量となっています。

繊細で美しい酸味と上質な甘味の、調和の素晴らしいドイツワインの輸入がなぜ少ないのでしょうか？

特に世界３大白ワイン品種の「リースリング」で造られるドイツワインは、これまで多くの人々を魅了してきました。ただリースリングはアメリカでもオーストラリアでも栽培されましたが、やはりいいワインが出来なかったようです。リースリングワインの生産は北緯 50 度のブドウ生産地北限のドイツで十分な光を受けるため急斜面で栽培され、南仏やイタリアより一か月以上長く、時間をかけゆっくり育てられます。加えて地質的に世界でも最も古い土壌、つまり４億年前のデボン紀の土壌や三畳紀の石灰岩など特有の土壌で生育されていることも素晴らしいブドウ品種に結びついていると言われています。

機械を使用することが出来ない斜面の多い栽培は、人手によるところも多く、どうしても高額になり、近年低価格化が進むワイン市場では、価格面でドイツワインを敬遠する傾向も強くなっているのも背景にあるようです。

ドイツワインは最高の健康飲料

一方、最近では、健康面で白ワインの効用が話題になっており、繊細な有機酸やカリウムを多量に含むドイツワインが、体内に吸収されると新陳代謝を促し、血流を促進、人体を形成する細胞を活性化するなどその利点が指摘されることも多くなっています。ワインは素晴らしい飲み物で、その上健康と若さを維持する優れものでもあります。

切れのいい繊細で美しい酸味と上品な甘みが絶妙にハーモニーを奏でる、果実味豊かなドイツワインを今日も皆さんで楽しくお召し上がりください。
また「ドイツワイン塾」も開催しますので、機会があればご参加されることを心よりお待ちしています！

（現在、予定は延期され未定になっています。編集）

代表取締役 黒川　英作

ドイツワインの注文や問い合わせ：

「ワインブティック伏見」

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西 6-1-31

Tel: 045-771-4587、Fax: 045-771-4401

「ドイツ銘醸ワインを楽しむ会」2013 年 9 月

ドイツ・インダストリー4.0（第４次産業革命）その後 最近のシンポジウムから

中小企業支援委員会 顧問
理 事　坂井　啓治

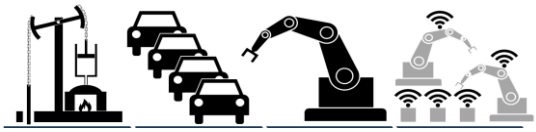
世界を震撼させたコロナ禍パンデミックの序盤２月、今年最初のシンポジウムの題名が「ドイツ中小企業におけるインダストリー4.0」だった。東京虎ノ門ヒルズフォーラムには殆どの聴講参加者がマスクをつけていた。古くて新しいこのタイトルに筆者の関心事は、久しく聞かなかったこのテーマに、ドイツ中小企業のその後の対応だった。

主催の在日ドイツ商工会議所による開会の辞は、「現代の産業界は、M2M(人と機械)による安全と安心のデジタル化の時代であり、日独中小企業による情報の共有化が求められている」と。次いで基調講演は在日ドイツ大使館一等書記官経済担当「デジタル化へのシフトは Industrie4.0 が依然として基本となっている……加えて現在は AI(人工知能)に対する戦略を考える時であり、I-4.0(インダストリー4.0) の 2030 年に向けたビジョンを考えねばならない」で締めていた。

翻って、私共の活動の一つである「地域中小企業支援」は、横浜市の経済基盤拡大への一つの指針である「地域中小企業の発展」であり、これに呼応するものである。欧州経済・産業の優等生であるドイツを参考にしては如何かと、ドイツ中小企業の動向を地域の企業経営者に伝えたいと、IDEC(横浜企業経営支援財団)と共催で 2016 年以来昨年まで 4 回に亘り I-4.0 を根底のテーマとするセミナーを開催し、ささやか乍ら社会貢献を務めてきたのではないだろうか。

その背景としては、ドイツのモノづくり(製造業)は、米国のように大企業主導型でなく、中堅企業・中小企業数はドイツ全企業の 99.5％(日本 99.5%)、総生産高の 52%、売上高の 40%(日本 34%), 従業員数の 60%（日本は 60%）を占めており、会社形態・業種など細部の差はあるが、日独中小企業は良く似ている。昨年までの働き手不足、生産性向上、事業継承などの課題は、日独共通だった。

IDEC-JDGY セミナーでは、中小企業の生産性向上に向け、通信情報技術や産学官連携に関する専門家の講演、地域中小企業の経営者も登壇願うパネルディスカッション、ネットワーキングレセプション（参加者交流会）が恒例のプログラムである。

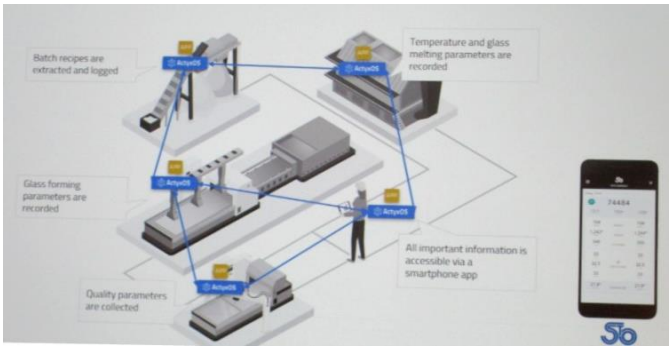


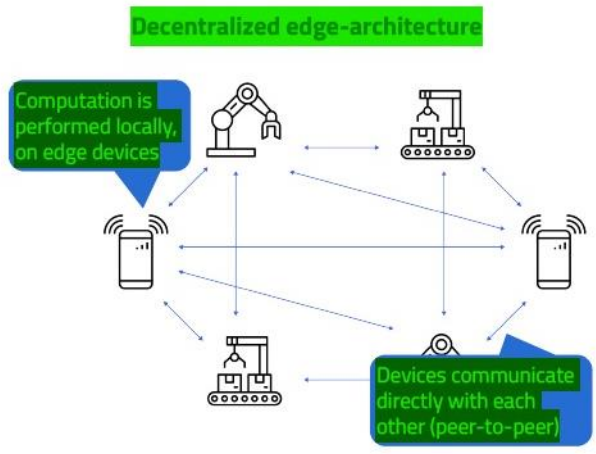
第１次産業革命：蒸気機関による鉄と繊維工業（18-19 世紀）
第２次産業革命：電力使用による大量生産・内燃機関による大量輸送（19－20 世紀）
第３次産業革命：コンピュータによる情報通信技術を駆使した生産方式（20 世紀末）
第４次産業革命：デジタル技術によるロボット、AI（人工知能）、3D プリントの先端技術の実用化

『インダストリー4.0』が目指しているのは、IoT（すべてにインターネット）の駆使によるデジタル化により①工程管理―受注/設計/生産/在庫管理/…までの一貫化　②製造装置の世界標準による輸出　③エンジニアリング―技術開発/生産現場の最適化　④ソフトウェア―あらゆる情報のネットワーク化と蓄積されたデータを管理する機能とハードという機械機能のソフトを最適化し、生産性の向上と新しいビジネスづくりを行うことであった。

ただこれを完遂するには多くの課題がある。特に中小企業では、機械の標準化や、自社の技術ノーハウ開示、高度な専門技術者、新しい設備投資などを直ぐ実行出来るかどうか。そこでドイツでも、「完全な自動化は必要ではない」「一貫生産システムでなく、部署間の連携とこれをまとめる方式による、一歩だけ進んだ合理化」を推進するというものである。いずれも前述の冒頭の挨拶や基調講演にもその考えがみえる。
今回のシンポジウムで、ある講演は次のように表現している。“単純労働は自動化を活用　知能労働は人工知能を活用　ヒトはより創造的で高付加価値の仕事に従事せよ”と。このコンセプトを推進しているドイツの A 社の起業家の一人は、以下のようなスライドで説明してくれた。

「中小企業の生産ラインでは、一貫生産工程でなく、製品の機械の島ごとにスマホだけで生産管理をし、これを他の島の生産管理のスマホでつなぐ。この場合従来の設備が活用可能であり且つ従業員の有効活用となる」（この記事をお読みの企業の方で、この講演の詳細を知りたい方は、資料のご提供は可能です）





上述の事例は、嘗て潮流と言われ日独政府が共同で推進しようと合意した中小企業の I-4.0 も手に届くところまで来たかの印象がある。（了）

ドイツ産業トピックス(第 12 回)

理事 大堀　聰（中小企業支援）

前号に書いてから、ドイツを取り巻く情勢もコロナウイルスの影響で大きく変化しました。新聞の経済、企業に関する記事は、ウイルスの影響によって悪くなったというものばかりです。またこの記事を書いているのは5月上旬ですが、日々刻々と企業の状況も変化しています。そういう中でこの記事を書いたことを、まずご了解ください。

＜買いだめ (Hamsterkauf)＞

3月、メルケル首相が「これは決して買いだめを勧める呼びかけではない。」と語りました。（„Das ist jetzt kein Aufruf zum Hamsterkauf“, sagt Merkel.　11.03.FAZ ）この時私の周りでも「ドイツ語で買いだめは"Hamsterkauf"と言うのだ！」とか「ドイツ人でもトイレットペーパーの買いだめをするのだ！」などという言葉を聞きました。ドイツの辞書 "Duden"によれば、この「買いだめ」という単語は「せっせと頬袋に物を貯める小動物のハムスターに由来する」となっています。

ちなみにこの言葉を私が知ったのは2000年の事でした。私はドイツ語の書籍を読んで出会った慣用句を、日付を入れてホームページで紹介しています。現在8700ほど表現を上げています。よろしければご覧ください。冒頭から少し自己 PR でした。

「生きているドイツ語」(グーグルで検索下さい)

＜新しい生活様式の飲食業＞

ヨーロッパではコロナによる規制の緩和が論じられています。新しい感染者の数が減ってきたのが原因ですが、これ以上封鎖していては、経済が立ち行かなくなるという危惧があるからです。

そんな中、スイスでは外食業の再開に向け、5月 11 日からの“飲食業の防御対策”というのが示されました。(Schutzkonzept für das Gastgewerbe)

詳細にわたり注意が書かれていますが、いわゆる3密を避ける以外に、日本では導入は難しいのではと思われる条件が添えられています。例えば次のような条件はどうでしょう？

☆全ての客は連絡用に名前、電話番号等を記入する。
☆全ての客は座って食べる事、立ち席は認められない。

日本では駅の立ち食いソバなどの営業が出来ないことになります。ドイツも飲食業の再開は決まりましたが、この種の規定はまだ出ていないようです。しかしながら同様に厳しいものになるのではないでしょうか？

＜ルフトハンザ＞

航空業界はコロナの影響を最も強く受けた産業のひとつです。ルフトハンザでは95%の便が運休に追い込まれ、全従業員の 3 分の 2 にあたる 8 万 7 千人にドイツの雇用維持制度である“時短勤務（Kurzarbeit）”を導入しています。一方では生き残りのため、約1兆円の援助を政府に求めています。

そして援助は欲しいが国の影響下には入りたくない、というのが会社側の要望ですが、政府ではもう会社の独自性は無くし、契約権を取り上げるという国有化が論じられています。今は政府とルフトハンザの間で駆け引きがあるようですが、交渉がうまくいかない場合は、倒産の可能性も排除できません。この冊子が届くころには結論が出ていることでしょう。

＜アディダス　兄弟会社＞

日本でも長期に店舗を閉鎖する中で、賃料の支払いが負担になっています。そして支払いの延期などが議論されています。ドイツの大企業で「テナント料を支払わない」と言ったのが、歴史あるスポーツ用品メーカーのアディダスでした。 これに対してはツィッターでボイコットが呼びかけられ、政治家も怒りだす始末でした。その後アディダスは謝罪しました。

その後も“三本線のアディダスは沢山の問題”を抱えると報じられます。(Drei Streifen und viele Probleme. 27.04)

そんなアディダスは、もう一つのドイツのスポーツ用品メーカーであるプーマ(Puma)とルーツを同じくしています。もともとは一つの会社だったのですが、兄弟が仲たがいして1948年に二つの会社となり、それぞれが安定した地位を築きました。

私が興味深いと思ったのは、例え兄弟でも考えが違えば、早々と会社も別にするドイツ人の合理性です。ドイツ全土に広がるディスカウンター・チェーンのアルディ(Aldi)は、北と南で二つの会社に分かれています。これはアルブレヒト兄弟が煙草の販売に関してもめた結果です。

日本で兄弟経営を考えた場合、まず思い浮かぶのはカシオの樫尾三兄弟ですが、3人とても仲が良かったと認識しています。親子経営ですと、仲たがいの例として大塚家具が思い浮かびますが、こちらは別れた後、経営がうまくいっているとは思えません。　（以上）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ドイツの最新エネルギー事情

常務理事・中小企業支援委員長
大瀬　克博

ドイツ政府は今年 3 月に、1560 億ユーロ（約 19 兆円）のコロナ危機対応の経済対策を決めましたが、更に 6 月 4 日、1300 億ユーロ（約 16 兆円）の追加経済対策を発表しました。追加対策の約 60%は来年度までの景気対策ですが、残り 40%は気候保護と DX(デジタルトランスフォーメーション)推進への将来投資で、ドイツ政府はこれを「危機脱出の大胆な第一歩」と表現しています。まさにコロナ危機をチャンスに変える意気込みを感じます。気候保護ではエネルギー戦略を転換して風力発電を主力電源と位置付け、新たな技術開発を推進して更なる設備増強を図る計画です。そのために 90 億ユーロ（約 1.1 兆円）を充当します。ドイツの今年 1～3 月の再生可能エネルギー供給電力は対前年同期 15%アップの 723 億 kwh と全体の 51.2%となり、初めて火力、原子力の従来型エネルギーを越えました。比率トップは風力の 34.9%、石炭（褐炭を含む）は 22.3%、天然ガス 12.7%、原子力 11.6%でした。従来型エネルギーは対前年同期で 22%ダウンし、特に石炭は 33%減少しました。

（次ページへ続く）

再生可能エネルギーの増加に伴い、温室効果ガスが減っています。エネルギー部門の 2019 年排出量は 2018 年対比で 18%減少しました。ドイツは 2030 年の再生可能エネルギー比率 65%を目標に、化石燃料からの脱却を着実に進めてきました。しかし、65%の達成は容易ではありません。再生可能エネルギーの主力となる風力発電設備の主な建設地は、バルト海そして北海の洋上です。電力を需要地に運ぶため、新たな送電線建設も必要です。しかし、その建設は近年ますます難しくなっています。また石炭(褐炭)産業への影響も深刻です。

さらに電力特有の技術的な問題があります。電力の世界に「同時等量」という言葉があります。電力は使う量と作る量が同じでないと、発電量が需要より多くても少なくても、安定供給はできません。風力、太陽光は気象条件により発電量が大きく変動し、今その調整役を担うのは化石燃料火力発電です。現在の延長線上で更に風力発電を増やし、火力発電を減らすことはできません。その解決策として計画されているのが、洋上風力発電設備による水素生産です。作った水素は火力発電、家庭の熱電併用そしてエコカーに利用します。ドイツが水素エネルギーで世界一を目指す壮大な開発プロジェクトで、気候保護プログラム達成の鍵を握ると注目しています。(寄稿 2020 年 6 月 10 日)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

新型コロナウイルス感染症
―機会としての危機―

観音寺住職 ゲッペルト昭元

今回の新型コロナウイルス感染症に対して、私たちは今まで体験したことのない危機に陥っています。日々感染に怖れ、これまでとは違う生活様式を強いられ、年齢、性別、国籍や国を問わずに不安・苦しみ・悩みが広がっている現実だと思います。

しかし、危機という2文字は、危険と機会が合わさったものです。この危機(クライシス)を機会(チャンス)であると思えば良いです。これは足を止めて自分を見つめる(見つめ直す)機会です。

私たちの普段の日常生活は色々な義務、約束、勤め等様々なしがらみの間に詰まっている状態ですが、この危機で“STAY HOME” を強いられている私たちには、足を止めて人生・生活の様々な側面を再考するチャンスがあります。

「私にとって本当に大切・重要なことは何ですか。」
「限られた時間をどう使うべきですか。」

この危機を「無常」に対する意識を得るために良い機会として捉えてみましょう。仏教の観点による「無常」とは、私たちを取り巻く世界は常に変化していることを言います。そして、変わっているのは世界だけではなく、私たちも常に変わっているのです。人体は、植物や動物と同じように老化していく生物です。この世に生まれてくる瞬間から私たちの時間は限られています。

言わずと知れた無常の世の中ですから、全てが水に書いた文字のようなもので、跡形を留めず直ぐに消え去るものです。このことは誰でも納得しているように思えますが、実はこれを自分には当てはまらないと考える人が多いでしょう。ほとんどの人は時間が無限にあるという幻想を持ってしまいます。それは完全に間違いです。

危機の時、私たちの人生がいつまでも続かないことを理解できるし、逆にこの限られている時間は一体どう使うべきであろうか、見直しができる機会です。

「観自在」

自分の存在を観る機会と思ってみましょう。

非常な人生の危機におちいった時、私たちは神様にでも佛様にでも手をあわせてお祈りします。人間の力でどうしようもない時には、人間を超えた存在にお祈りするのが人間の本性です。神様・佛様の力(他力)をお借りします。言い換えれば、自分の行先を神様・佛様にお任せすることです。

しかし、他の宗教に比べると、仏道、特に禅は遠くの超越的な存在に救済を求めることではなく、自分の不安や悩みの克服をはかる道です。言い換えれば、他力ではなく、自分の力(自力)を使い、自分で悩みを解決することです。この不安の克服をはかる道は約2500年前お釈迦様がお示し下さいました:**「自己を究明すること」**

悩み・苦しみを解決するためには、外に向かって救済を求めることではなく、先ず自分(自分の心、自分の存在)を観る必要があります。曹洞宗の大本山永平寺を開かれた道元禅師は「現状公安」という文章で次の言葉を遺されました:

「仏道をならうというは、自己をならうなり」

危機というのは、ほとんど予期せぬ事態です。私たちはこの危機に対して心も体も準備ができていないので、自分が無力だと感じます。そして、答えが出てこない質問・疑問は沢山あります。

「この病気はどう起こったのですか。」
「この危機はいつまで続くのでしょうか。」

答えが出てこない質問・疑問を持っていても、心の雲は晴れません。

禅宗では、**「今ここ」**に生きることが強調されています。過去に囚われたり未来を憂えたりするのではなく、「今ここ」という目の前にある現実に集中することが重要です。

私たちはどんなに頑張っても過去を変えることはできず、未来も見ることはできません。したがって、選択肢は一つしかありません。

「今　ここに生きる」　　合掌

緊急事態宣言のさらなる延長が発表された大型連休明け、先が見えないことに悶々とする中、ふと「昭元先生はこの状況をどうとらえていらっしゃるだろうか。」と、お考えをお聴きしたくて先生にご連絡をとってみました。そして、先生がお寄せ下さったのがこの玉稿でした。何度も繰り返し拝読して心に刻みました。皆様にも是非読んで頂きたく思います。昭元先生、本当にありがとうございました。　　西条 りみ

(ドイツ人禅僧、ゲッペルト昭元先生には、2018年11月の例会で講演して頂き、西条様に感想文をお願いしました。2019年１月号に掲載しています。HPでもご覧になれます。編集)

ニュルンベルク通信 1

YC 会員： 武田章寛

大変な世の中になってしまいました。皆さまにおかれましてはお変わりありませんでしょうか。 私は昨年秋より、ニュルンベルク音楽大学 Meisterklasse (博士課程)に在籍し、拠点をエッセ ンからニュルンベルクに移しました。そして、最初のニュルンベルク通信では残念ながらコロナウイルスの影響について私の近況をお話ししなければなりません。

実は、私は今春3月下旬から4月上旬に帰国し4月4日は自身のリサイタルを、東京・永福町にある sonorium というホールで開催の予定にしておりました。 皆さまにご案内をいざ送ろうという矢先に今回の新型ウイルスのニュースがあり、ご案内が出来ずに憂慮する時間ばかり過ぎていきました。 ギリギリまで開催できないか思い悩んでおりましたが、やはり目に見えないウイルスはどこに潜んでいるかわからず、結局は断念致しました。

私は昨年3月より一度も帰国をせず、バイエルン州北部のニュルンベルクの、新しい環境の下で勉強を続けて参りました。有難い事に、ニュルンベルク音大では私が予てから師事していた新たな先生 ダニエル・ゲーデ教授のアシスタントとして学校が雇って下さり、同じ門下生の指導にあたっております。また、コンサートの機会も沢山頂き、この一年は大変充実したものでした。今回のリサイタルはいつも応援下さっている皆さまに、是非とも一年の成果をお聴き頂きたいと思っておりましたので、非常に残念でなりません。

先日、急遽、私はデュッセルドルフより成田行きの飛行機に飛び乗って、現在は実家にて2週間の隔離期間を過ごしております。幸い、私も家族も健康に過ごしております。帰国に至った経緯もお話しさせて頂きたいと思います。

４月のリサイタル開催の断念、並びにご支援頂いている横浜日独協会の例会コンサートや、後援会長高宮光先生のご配慮による病院コンサートなど、今春の帰国後の用事が全てキャンセルになった頃、アジア諸国のウイルスの被害状況が欧州では連日報道され、「アジアは大変だね」などと言われておりました。当初は１年ぶりの帰国を見合わせて、のんびり練習をするかなぁ、などと考えて、予定していた帰国の飛行機をキャンセルし、クリストフ・ポッペン氏指揮のケルン室内オーケストラのレコーディング＆演奏会のため、ケルンへ向かいました。 モーツァルトのミサ曲を4曲レコーディングだけに、10日間に渡る長丁場だったのですが、その10日間に起こった状況の変化、またその後帰国に至るまでの10日間に起こった変化には、今思い返しても驚くばかりです。

欧州各国での感染者は瞬く間に増え、ニュルンベルク音大は閉鎖、ドイツ全土のオーケストラや劇場も活動停止、そしてレコーディングが中盤にさしかかった所で、ケルン・フィルハーモニーでの演奏会の中止の通達がありました。私はケルン室内オーケストラで仕事の際は、私のドイツでの家族のような方々が隣の都市のボンにいらっしゃり、いつもはそちらに泊めて頂いており、今回も同様でした。大学閉鎖であり、ニュルンベルクの自分のアパートでは音出しができないため、「これからどうしよう。」と困っている所をそのご家族に救って頂き、引き続きボンで素晴らしい練習環境のもとで過ごしておりました。ただ、家に引きこもっている間も、ラジオや新聞では欧州での状況の悪化を知らせるニュースばかり。 レストラン、カフェ、バーは全店営業停止。スーパー、薬局は開いているものの、２人以上で行くことは禁止、道や公園でも3人以上で歩いたり喋ったりするのも禁止、スーパーでは買い占め防止のために、1人が同じ製品を3つ以上購入するのは禁止、もし守らない場合には高額な罰金というところまで規制強化となりました。

そして3月24日の朝、いつも通りリビングへ行くとお家の方の顔色が良くありません。なにか嫌な予感がしたところで切り出されたお話が、ボンの制令で家族以外の人を自宅に泊める事を禁止したと言うのです。 さて、困り果てました(笑)。 もたもたしていればイタリアのように移動の制限がかかるかもしれない、お家の人にも迷惑をかけてはならないので即刻家を出なければならないのは承知の事。でもどこへ行きましょう？ 4月から5月にかけての仕事はどうなるのだろう？ ニュルンベルクに帰っても大学閉鎖で練習できない、アパートの隣人にお菓子でもあげて練習させてくれと説得するか？ でも十分には練習出来ないなどと・・・・
色々な事が頭をよぎって決めた決断は、「よし、東京に帰ろう。」でした。そうと決めれば、善(？)は急げ。 なんと運良くその日の 20 時にデュッセルドルフ空港から出る便が見つかり、帰国に至った訳であります。 こんなに閑散としたデュッセルドルフ空港は今後も見ることはないだろうと思い、写真を撮りました。

「まぁ、なんとかなるさ」と思える私の性格も、こういう時には役に立つものです(笑) 東京に戻って来れる家があること、その日の内に搭乗出来る飛行機が見つかったこと、成田空港到着後に帰国者は公共交通機関が使えないため家族が車で迎えにきてくれたこと、更に言うならボンの街がその日に新しい厳しい規制を発動してくれたこと、数々の幸運が重なって私は戻って来られたのかもしれません。

コロナの話はここまでにして、最近の私の演奏会についてもお話し致します。
2月には大学のオーケストラと、モーツァルトのコンチェルトを演奏させて頂きました。演奏の録音は YouTube に載せました。お時間がありましたら以下のリンクからお聴き頂ければ幸いです。https://youtu.be/n8t-g5cPG08 この演奏会では素晴らしい指揮者の方とご一緒する事ができ、大学の仲間と楽しく演奏できたことは私のかけがえのない経験となりました。

2月末には Thüringer Symphoniker というオーケストラのゲストコンサートマスターとして呼んで頂き、ワイマールの近くの Rudolstadt という町におりました。(写真：Rudolstadt のハッケンブルグ城)

（次ページへ続く）

（前ページより）Rudolstadt は作家のシラーとゲーテが初めて出会った町で、私が宿泊した宿はゲーテ自身も滞在したホテルでした。

プログラムは難曲のストラヴィンスキーの「火の鳥」がメインプログラムで、初めてご一緒する方々の中でリーダーシップが務まるか不安はありましたが、有難い事にコンサート後に音楽監督の指揮者の方とお話しをしたところ、今後にはより多くの機会でコンサートマスターとしてお声をかけて下さるとのお言葉を頂きました。実際に、今シーズンのプッチーニ作曲のオペラ「蝶々夫人」でのコンサートマスターを依頼され、残念ながら予定が合わずお受けできませんでしたが、次の機会を頂ける事を楽しみにしております。プロオケでのコンサートマスターは初めてで、貴重な経験を積みました。

今回は長編となってしまいました。最後までお読み頂き、感謝申し上げます。 私たちのために、世界の人々のために事情が一刻も早く好転する事を祈ります。どうか皆さまも、くれぐれもお体にお気をつけて下さい。

2020 年 4 月 1 日 東京にて 武田章寛

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

文化委員会企画

教養講座「百人一首をよむ」

【日時】原則として毎月第 1 水曜日 13:00～14:30
7 月例会 中止
8 月 お休み
9 月例会 **中止**
10 月例会 **中止**

【会場】神奈川県民センター
（横浜駅西口より徒歩 5 分）

【講師】寺澤行忠会員（慶応義塾大学名誉教授）

横浜日独協会 HP リニューアル！

ホームページを新しいスタイルにリニューアルしました。
スマホでも読みやすくなりました。
引き続きお楽しみください。http://jdgy.sub.jp/

NPO 法人横浜日独協会会報 発行 2020.7.1 (第55号)
所在地：〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷 1-2-1 地球市民かながわプラザ
NPO などのための事務室内 事務局：能登・齊藤
Tel: **080-7807-7236**
E-Mail: jdg-yokohama2010@outlook.jp
会報編集責任者: 山口 利由子
E-Mail : jrr3@mvj.biglobe.ne.jp
横浜日独協会ホームページ http://jdgy.sub.jp

行事予定

■ 2020 年 7 月 例会： **中止**
・日時：7 月 18 日（土）午後 3:00～5:00
・会場：戸塚区民文化センター 3 階 多目的室(中)
・講演：野澤勉会員
『チーズの楽しみ方－試食とともに』
・会費：例会 1000 円

■ 2020 年 9 月 例会：**中止**
・日時：9 月 19 日（土）午後 3:00～5:00
・会場：戸塚区民文化センター 3 階 多目的室(中)
・講演：黒川 剛 元オーストリア大使
『100 年後から見るワイマール文化』
・会費：例会 1000 円

■ 2020 年 オクトーバーフェスト：**中止**
・日時：9 月 26 日（土）午後 4:30～（詳細未定）
・会場：横浜カントリーアンドアスレティッククラブ

■ **2020 年 10 月 設立 10 周年記念事業 中止**
・日時：10 月 17 日（土）午後 1:30～5:00
・会場：横浜市開港記念会館 講堂
・内容：記念式典、記念講演、記念演奏会
・入場整理券：一般 1500 円 学生 500 円（予定）

※7 月以降の例会他行事につきましては、新型コロナウイルス情勢により延期／中止等の可能性がありますことをご承知おきください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

編集後記： 今年から会報が季刊誌になりますので、発行時期を調節しておりましたら、今回ちょっと間があいてしまいました。今後ともよろしくお願いいたします。投稿、お待ちしています。（山口）

＊佐藤しのぶさんを応援していた会員の方から、**しのぶさんの YouTube のお知らせ**を頂きました。
https://www.youtube.com/watch?v=tTRCVkSukzY

＊ドイツ人の知人から下記のお知らせが来ました
Mit diesem besonderen Konzert der Tonhalle wurde in Düsseldorf der 1. Mai begangen.
https://www.youtube.com/watch?v=s5mLLs_XB6w&feature=youtu.be
Und hier noch etwas sehr nettes aus Japan.
https://www.youtube.com/watch?v=0Eax4cw6QFA

＊声力講座 島村武男 2020
横浜日独協会でもお馴染みの世界的オペラ歌手、島村武男氏の声力講座です。
https://www.youtube.com/watch?v=kzvk3QNMeBc

法人会員

株式会社 文芸社 ウィンクレル株式会社 ボッシュ株式会社 トルンプ株式会社
ワインブテイック伏見 モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合 横浜国立大学－成長戦略研究センター
公益財団法人 登戸学寮 株式会社 コトブキ 神奈川大学 ケルヒャージャパン株式会社
キャリア・デベロプメント・アソシエイツ株式会社 一般社団法人 如水会横浜支部